1995.4
第22号

# 博物館だより

大津市歴史博物館

## 開館5周年記念企画展
## 「―街道の民画―　大津絵」を開催

4月29日(金)～5月28日(日)

雷と太鼓　福岡市立博物館蔵

藤娘　町田市立博物館蔵

大津絵は、東海道大津宿の追分・大谷あたりで描かれていた民画です。名もない絵師が描き、街道をゆく人々に売られていました。江戸時代初めの寛永年間（一六二四―四四）頃から描かれていたとされ、当初は、もっぱら仏教の尊像を画題にした作品が描かれていました。これらの大津絵仏画は、高価な仏画や仏像を買うことのできない庶民の日常の礼拝に用いられたのです。阿弥陀三尊来迎図をはじめ、人の年忌法要の際に掲げられる十三仏、庚申講の本尊として祀られた青面金剛などの作品が比較的多く残っています。

少し遅れて、滑稽な絵柄のものや、そこに風刺の意味を持たせたもの、英雄や人気者を描いたもの、浮世絵の美人画の影響を受けた画題が登場します。井原西鶴の『好色一代男』には、主人公が北陸で何枚かの大津絵を貼った屏風を見て郷愁を誘われる場面があります。そこに見える画題は、「鼠の嫁入り」「鎌倉団右衛門」といった、今ではもう見れない世俗的な画題が多くあります。この本が刊行された天和二年（一六八二）には、仏画とともに世俗画も多く描かれるようになり、その知名度も高くなっていたと思われます。また、もっと時代が下がると、江戸時代に流行した心学の影響を受けて、教訓の意味が持たされるようにもなりました。

大津絵の人気。それは、一目見ただけで興味をそそられるユニークな絵柄と近松門左衛門の『傾城反魂香』に「三銭五銭の商い……」と謳われるような安価な価格にあったのでしょう。

開館五周年を記念する今回の展覧会では、大津絵の優品約一八〇点を集めました。その素朴な味わいをゆっくりとご鑑賞ください。

## 企画展の内容（主な展示作品）

企画展で展示する主な作品は次のとおりです。みなさんのご来場をお待ちしております。

**①　阿弥陀三尊来迎図　一面　町田市立博物館蔵**

阿弥陀如来が観音・勢至の二菩薩を脇侍として従え、衆生救済のため降臨しようとする場面です。本図は、雲の描き方などから降臨のスピード感を強調する早来迎図という形式を踏襲したものです。極楽往生を願う人々の願いや、苛烈をきわめた江戸時代初期のキリシタン弾圧に対し、キリスト教徒でないことを証明するため需要があり、大津絵でも多くが描かれました。この作品は阿弥陀の衲衣や菩薩の裳に金砂子がよく残り、雲や蓮華座、菩薩の天衣に彩色が見られます。また、大津絵の仏画では、表装したように手で描く描表装をしますが、本紙部分と現代の表具との間に描表装の一部が残り、描かれた当時の姿を忍ばせています。

阿弥陀三尊来迎図
（町田市立博物館蔵）

**②　猫とねずみ　一幅　館蔵**

ねずみが自分の体ほどもある大きな杯を飲み干そうとし、横で猫が笑いながら唐辛子を勧めています。一見楽しそうな図ですが、付された賛のひとつには「だまされて　またその上に　情（精）出して　踊りてまふて　そしてとらるる」とあります。つまり、猫はねずみを太らせるだけ太らせてからとって食べようとしているのです。この絵とは反対に、猫が一心不乱に酒を飲み、ねずみが唐辛子を差しだしている構図もありますが、いずれも酒に飲まれることを戒める意味があります。

猫とねずみ（館蔵）

**③　釣鐘弁慶　一幅　個人蔵**

延暦寺と園城寺が宗門争いを繰り返していた頃、延暦寺の僧兵であった弁慶は、園城寺の釣鐘を奪って延暦寺へと持ち帰りました。しかし、鐘が思うような音色でならないことに腹を立て、谷底へ放り投げたといいます。この作品はその伝説をもとにして作られました。この作品は、弁慶の顔や衣装に格調の高さが感じられ、この画題のなかでも早くに描かれたものです。また、弁慶が乗っている山が「ひゑい山」という文字で表現されているのがユニークです。十種大津絵のひとつにもなり、この絵を持っていると「身体剛健にして大金をもつ」ようになるとされました。

釣鐘弁慶（個人蔵）

# 収蔵品紹介⑳

井口家旧蔵書画短冊等貼交屏風から　鬼の念仏図
紀楳亭筆　紙本淡彩　縦一一一・六　横二八・〇
享和三年（一八〇三）　個人蔵

大津と京都の境目の国道1号線は言うまでもなくかつての逢坂越えです。1号線のほかにも名神高速・京津線が並行して走りまさに交通の要所なのですが、それは江戸時代も同じでした。むしろ、車道や線路が占拠して完全に輸送路と化してしまった現在にくらべ、まだ街道であった頃の逢坂越えの風景は人々の活気があふれた道だったのです。なかでも、大谷町の走井とよばれる水量豊富な湧き水は、旅人や荷役の人々にとって喉の渇きをいやしてくれるまたとない井戸であったらしく、そこに群がる人々を相手に店が軒を並べ、錦絵や名所図会にもしばしば紹介されています。

今回ここに紹介する「鬼の念仏図」もかつてその走井に伝わったものなのです。描いた人物は、与謝蕪村（一七一六～一七八三）の弟子である紀楳亭（一七三四～一八一〇）です。図版でみると掛軸の作品に見えますが、実は屏風に所狭しと貼り付けられた様々な書画のうちの一枚なのです。この様な屏風を貼交屏風と呼びますが、要するに自慢のコレクションのアルバムを兼ねた調度品であり、なかには当代の有名な文化人を網羅したようなものもあります。この屏風のコレクターの名は井口烏頂（明和［一七六四～七二］頃～一八二四）。名物走井餅の店の主人であり、「海内俳諧東西三十六歌仙合」（一八一六）にも名の見える俳人です。当然、発句短冊や俳画のコレクションが中心に貼られているのですが、俳人以外の京都の書家や画家のものも少なからず混じっているところに、俳諧を通じた烏頂の交際の幅広さが伺われます。

さて、この「鬼の念仏図」ですが、落款（サイン）を見ると、烏頂が楳亭に揮毫してもらった時、楳亭はすでに七十歳、まさに『東海道人物志　享和三年版』の大津駅の項にその名が二番目にあがった年であり、大津の文化人のなかでも長老格でした。にもかかわらず本図に筆力の衰えはいささかも見られず、また鬼のポーズも大津絵本来の硬直ぎみの直立姿勢に比べ動きに富み、ユーモラスさも増しています。蕪村の古参格の弟子として長年俳諧や俳画を嗜んできた楳亭ならではの精神が滲みでて、それが従来の大津絵にない新鮮味を与えています。おりしも一八世紀の末から大津絵は形骸化しつつあり、それを嘆いた楳亭の奮起かもしれません。ともかく、楳亭の大津絵は好評だったとみえて、七一歳・七二歳時の作品も残っています。

ところで本図には、歌（道歌）が添えられており、「目にみえぬ人の心ぞおそろしき衣を着ても鬼はおに也」と書されています。これは京都の歌人であり、本図以外にも円山応挙をはじめ様々な絵師の作品に賛を寄せた賀茂季鷹によるものです。当時の京都を代表する歌人であった季鷹の人気はひっぱりダコであったらしく「京都大阪　近附きニなってよい人　一度ハいってよい処」（文化頃）という番付では堂々トップにあげられています。この季鷹は再び翌年に楳亭の大津絵に同じ賛をしており、名コンビの作として世間が重宝したのかも知れません。

（横谷　賢一郎）

# 「縄文時代の大津」展終わる

平成七年一月三十一日（火）から二月二十六日（日）まで開催いたしました特別陳列「縄文時代の大津」展は、おかげさまで好評のうちに無事終了いたしました。会期中、御観覧いただいた方々の数は、二、六五〇人にのぼりました。

本展では、大津市内所在縄文遺跡から出土した遺物のうち、近畿地方縄文土器の編年基準となっている早期の石山式土器、晩期の滋賀里式土器をはじめ各種の土器、石器、骨角器、動物・植物遺体など総数五〇四点、さらには石器・骨角器のなかから装身具にスポットをあて、加えて最近発見された真野城遺跡・雄琴段々遺跡の出土品をも含めたバラエティーに富んだ資料や遺跡の写真パネルのほか、「縄文土器の文様をさぐる」と題して実際に土器文様の施文法を体験するコーナーも設けて、「縄文時代の大津」に人々が居住したことを検証するとともにその当時の暮らしぶりを紹介した。会期中の講演会・講座もあわせて考古ファンをはじめ多くの方々に喜んでいただいた。

## 博物館日記抄

平成6年12月3日
平成7年3月末日

12月3日　第95回土曜講座「坂本城の復元」（講師吉永真彦学芸員）

6日　（仮称）大津埋蔵文化財センター起工式が行われる。

9日　東京都府中市教育委員会一行来館

14日　宇野茂樹氏（栗東歴史民俗博物館長）嘉田由紀子氏（県立琵琶湖博物館開設準備室）来館

24日　年末年始休館（1月15日まで）

1月6日　博物館新収蔵品展開く（16日まで）

11日　林屋辰三郎顧問との打合せ

12日　浅井忠夫氏（最高裁首席書記官）ら来館

13日　第九回博物館企画委員会を開催

15日　親子歴史講座「日吉御田神社の綱引きまつり」（講師和田光生当館学芸員）

16日　博物館収蔵品収集審査会開く。

17日　第11回歴史博物館協議会を開く。阪神淡路大震災が発生、日に日に被害状況拡大する

18日　大橋治夫氏（宮城県歴史博物館建設準備室）ら来館

21日　第96回土曜講座「正月わら縄行事」（講師前記と同じ）

25日　博物館収蔵品収集審査会を開催

31日　特別陳列「縄文時代の大津」開催

2月1日　「ギャラリートーク」開く

4日　特別陳列記念講演会「縄文人のくらし」（講師千葉豊氏　京都大学理蔵文化財センター）深掘章・前田孝両氏（長崎シーボルト記念館）・谷口浩正氏（愛媛県保内町役場）・埼玉県与野市教育委員会来館

8日　ギャラリートーク開く、木村至宏館長・岩田茂樹学芸員山梨県立美術館で時衆の美術展打合せ。古城和弘・前田豊両氏（大阪府立近つ飛鳥博物館）来館

11日　第97回土曜講座「粟津湖底遺跡の発掘調査」（講師伊庭功氏　県文化財保護協会主任技師）

15日　富森叡児氏（東海大学教授）来館

17日　岡本道雄氏（文化庁主任文化財調査官）・田辺昭三氏（京都造形芸術大学教授）来館

24日　石野博信氏（徳島文理大学教授）来館

26日　特別陳列「縄文時代の大津」閉幕

28日　ギャラリートーク開く。松村恵司氏（文化庁文化財調査官）・大橋信弥氏（県文化財保護協会）来館

3月4日　第98回土曜講座「江戸時代の旅Ⅰ」（講師樋爪修学芸員）

11日　親子歴史講座「膳所城下の町並み探険」（講師前記と同じ）

16日　避難および消防訓練を行う

17日　第10回博物館収蔵品収集審査会開く

18日　第99回土曜講座「江戸時代の旅Ⅱ」（講師前記と同じ）

30日　大津市伝統芸能会館の竣工式が開催される

博物館だより　第22号
発行日　平成七年四月二八日
編　集　大津市歴史博物館
発行所　大津市御陵町二―二
大　津　市　歴　史　博　物　館
電話（〇七七五）二二―二二〇〇㈹